

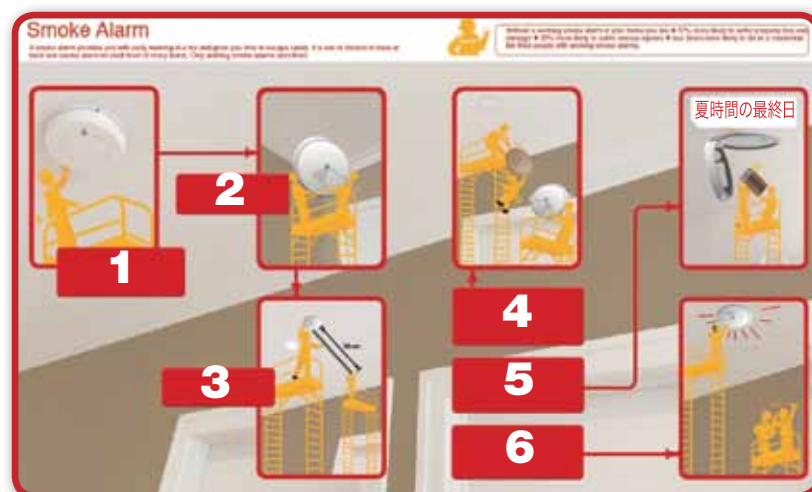


## 自宅での火災予防

### 火災報知器

火災報知器は火災の危険をすばやく知らせ、安全に避難できるようにする機器です。ビクトリア州の法律により、自宅の各階に火災報知器を少なくとも 1 台取り付けよう義務付けられています。火災報知器は正常に機能していない限り救命できません。

正常に機能する火災報知器を取り付けていない場合、◆家屋の損失と損害の発生率が 57%、◆重度の傷害は 26% まで上がります。◆火災による死亡率は正常に機能する火災報知器を取り付けている場合よりも 4 倍に跳ね上がります。



1. オーストラリアの各消防署は光電式火災報知器の使用を推奨しています。
2. 火災報知器は天井に取り付けてください。
3. 壁から最低 30cm 離れたところに取り付けます。
4. 10 年ごと 主電源につながるものも含め、火災報知器はすべて 10 年ごとに交換してください。
5. 毎年 火災報知器の電池を毎年交換し、カバーの回りからゴミをふき取ります。
6. 毎月 毎月 1 回、火災報知器のテストボタンを押して警報音が 3 回続けて鳴ることを確かめます。

### 避難計画

万が一火災が発生したときにどのような行動をとるべきかを把握しておくのは、非常に重要 なことです。以下のルールに従い、自宅で火災が発生したらどのように避難するのか計画を立てておき、家族全員で避難訓練をするようにしてください。

緊急時には必ず自宅から屋外に避難できるようにしておいてください。デッドロック(ドアの屋内側から鍵を掛ける仕組み)を施錠すると屋外に避難できなくなってしまうことを忘れないよう、注意してください。



1. 伏せる姿勢をとって煙から逃れてください。
2. 安全と判断できる場合はドアを閉めて炎や煙が広がらないようにします。
3. 外に向かいながら他の人に警告します。
4. 外に避難した後、中に戻らないでください。
5. 郵便箱など、自宅の外で安全な場所に集合します。
6. 携帯電話か近所の人から電話を借りて 000 (ゼロゼロゼロ) にダイヤルし、FIRE の通報をします。

### 台所、調理場

自宅で火災が発生する最大の原因は台所での調理にあります。台所に起因する火災は多額の損害を招くだけでなく、重度の傷害にいたることがあるので、台所では注意が欠かせません。

調理場から離れたアクセスしやすいところに消火器や防火毛布を保管してください。MFB (Metropolitan Fire Brigade) は、身体的および精神的にこれらの消化器具を安全に使用できる能力があると思う場合のみ、消火器または防火毛布を使用することを推奨しています。



1. 子供が台所にいるときは目を離さず、コンロやオーブンに近づかないように指示し、鍋などの取っ手は奥の方に向けてください。
2. コンロの回り、グリル、オーブン、レンジの吸い込み、調理場など、グリース、ゴミ、油が蓄積しないように常にきれいな状態を保つ必要があります。
3. 調理中は台所から離れないでください。
4. ペーパータオルやティータオルなど、可燃物は熱源のそばに置かないでください。
5. キッチン用の電化製品や電気器具が清潔で正常に動作することを確認します。

### 寝室

就寝中は、火災の危険が高くなります。寝ている間は臭覚がありません正常に機能している火災報知器がないと火災が起きて目覚められないか、または避難に遅れる恐れがあります。

火災報知器を寝室以外の場所に設置し、ドアを閉めて寝る場所には予備の火災報知器を設置します。



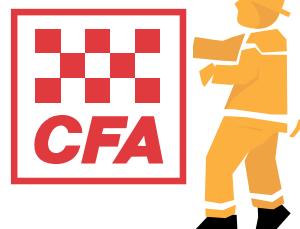
1. 非常に危険ですのでベッドでは絶対に喫煙しないでください。
2. ヘアドライヤー、ヘアストレートナー、ラップトップなどに電源を入れたままベッドの上に放置しないでください。
3. 電気毛布はベッドに入る 30 分前に電源を入れ、ベッドに入ったら電源を切ります。
4. 電気毛布は平たい状態にしておき、コントロール装置をベッドの横に置きます。ワイヤシステムが損傷していたり擦り切れていないか定期的にチェックしてください。
5. ドアを閉めて寝る部屋には必ず予備の火災報知器を設置してください。
6. 説明書付きのヒートバッグのみを購入し、メーカーの説明に従って使用します。

METROPOLITAN FIRE AND EMERGENCY SERVICES BOARD (MFB)

[www.mfb.vic.gov.au](http://www.mfb.vic.gov.au)

COUNTRY FIRE AUTHORITY (CFA)

[www.cfa.vic.gov.au](http://www.cfa.vic.gov.au)



## 暖房

暖房の手段として固定電気/ガスヒーター、薪火、薪ストーブ/緩慢燃焼のほか、電気、ガス、石油などのポータブル暖房器具があります。暖房器具から発生する火災件数は冬季に増加します。

外出または就寝の前にポータブル暖房器具をオフにし、薪火を消してください。

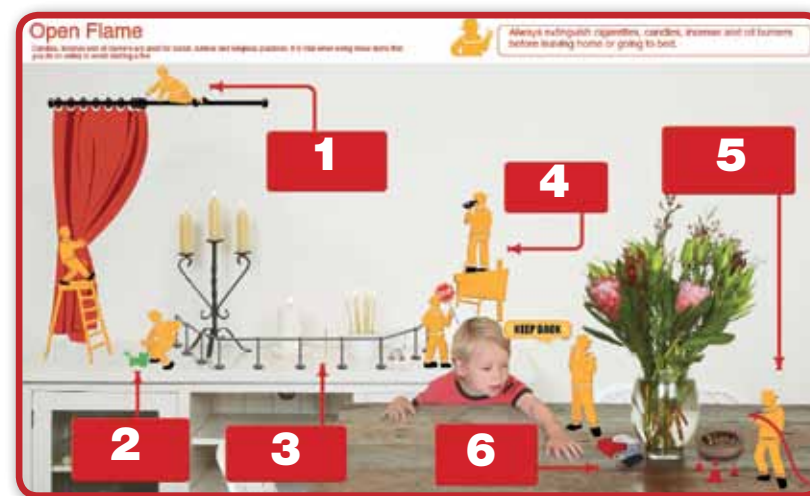


- 濡れた衣類などを干すときは、あらゆる暖房器具から少なくとも 1 メートル離れていることを確認してください。
- 暖房器具の設置、保守、使用については必ずメーカーの説明書に従ってください。
- 薪火を焚くときは必ず保護スクリーンを使用してください。
- 煙突や煙道を 1 年に 1 回掃除します。
- 燃料や可燃物は火元から少なくとも 1 メートル離れたところに保管します。
- 種類を問わず、暖房器具の近くにいる子供を常に監視し、暖房から安全な距離を保つようにしてください。

## 裸火

ロウソク、焼香、オイルバーナーなどの使用は社交、文化、宗教が背景となっていますが、安全に取り扱い、火災を招かないように注意する必要があります。

外出または就寝する前に必ずタバコ、ロウソク、線香、オイルバーナーを消してください。

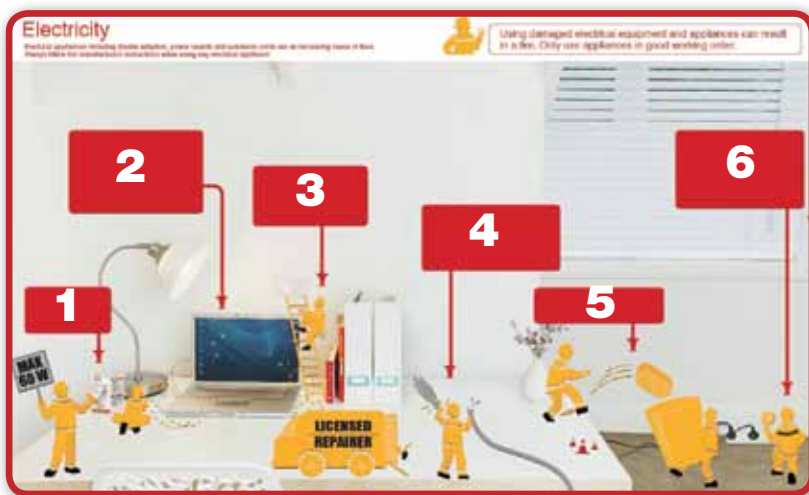


- 裸火の近くにカーテンやその他の可燃物がないことを確かめます。
- 子供や動物をロウソク、線香、オイルバーナーに近づけず、安全な距離を保ってください。
- ロウソク、線香、オイルバーナーは、表面が不燃性の安定したところに置きます。
- 直火は必ず監視の下で使用します。
- 灰皿は重く底の深いものを使用してひっくり返したりすることのないようにします。灰皿を使うときはタバコの火を完全に消してください。
- タバコ、ライター、マッチは子供の手の届かないところに置きます。

## 電気類

ダブルアダプタ、パワーボード、延長コードなどを含む電化製品や電気器具に起因する火災件数は増え続けています。使用するときには必ずメーカーの説明書に従ってください。

損傷した電化製品や電気器具を使用すると火災を招くことがあるので必ず正常に機能するものだけを使用してください。



- ランプにはワット数の低い電球を使用します。
- モニター、ラップトップ、テレビ、その他の機器を狭い場所に置いたり、カバーをかけたりせず、周囲の通気状態を良好に保ちます。
- 電気機器を使用しないときは、ソケットから電源を抜きます。
- 損傷していたり、欠陥のある電気機器の修理は認定電気技師のみに依頼してください。
- ダブルアダプタは使用しないでください。
- パワーボードはメーカーの説明書に従って使用し、過負荷状態にならないように注意するほか、損傷がないか定期的に点検してください。

## 洗濯、バーベキュー

洗濯室には洗濯機や乾燥機など、電気装置のほか、洗剤や化学薬品を保管するので、整理整頓は安全を維持する上で不可欠です。

バーベキューグリルを使っている間、回りにいる子供から目を離さないようにします。料理するときに自分自身と他の人達がやけどしないように安全を保つため、アルコール飲料の摂取は控えめにしてください。



- バーベキューグリルは必ず屋外で使用し、柵、物置小屋、壁などから少なくとも 1 メートルの距離をとってください。
- ホースは老朽化しておらず接続部が固定していて漏れないことを確かめてください。
- ガスボンベの点検日が指定期間内にあることを確かめます。
- 乾燥機類を使用するたびにほこりフィルターをきれいにします。
- 電気機器は水から離れたところに置きます。
- 乾燥機を停止する前にクールサイクルが完了したことを確かめてください。
- 化学薬品は子供の手の届かないところに置いてください。

